

科目区分	専門教育科目	科目名	子どもの絵と製作（指導法）		科目コード	17Y660	担当者	昆 正子			
対象学生	幼児教育学科2年生	学期区分	前期	単位数	1	卒業要件	選択				
						免許・資格要件	幼稚園教諭選択必修、保育士選択必修				
科目の主題						学修成果との関連（大◎、中○、小△）					
幼児の豊かな感性や表現意欲を育むための適切な援助や指導ができる 能力の涵養と保育内容の研究						1. 「 <u>尽心</u> 」 誠実な人柄と人間力	2. 「 <u>創造</u> 」 高度な知性と創造力	3. 「 <u>実践</u> 」 明確な意思と実践力			
科目の到達目標						① 誠実性・真摯性	② 多様性・協働性	③ 知識・技能	④ 思考・表現力・創造力	⑤ 実行力・自立性	⑥ 就業力・貢献力
1.	材料や用具、技法の扱い方を習熟し、自身の作品制作に活かすことができる					○	○	○	○	○	
2.	幼児の発達段階と造形表現との関係について理解する										
3.	幼児の造形表現活動において適切な指導や援助について理解する										
4.	幼児が楽しめるような造形表現活動を計画することができる					○	○	○	○	○	
5.						成績評価の方法と割合					
授業方法						提出物（45%） 発表内容（30%） 受講態度（25%）					
身近な材料や用具によるさまざまな造形表現活動とその指導方法について提示し、演習を行う。 保育現場での実践事例を紹介し、造形表現の目的や意義を説明する。 保育現場での実践を想定し教材研究を行い、発表・協議する。											
準備学修						課題等への対応					
予習・復習に年間15時間確保してほしい。 予習：教科書や前時に配布されるプリント等を熟読し、必要な用具や材料、計画などを準備してくる。 復習：授業での学習内容をまとめ整理する。 また、制作に必要な時間には個人差があり、作品完成のために時間外での制作を必要とする場合がある。						レポート、作品回収後は適宜助言を書き添え、後日本人に返却する。 作品については鑑賞の時間を設ける。					
授業計画											
第1回	オリエンテーション、幼児の造形活動計画について										
第2回	幼児造形の実践研究についての留意点										
第3回	紙による表現										
第4回	粘土による表現										
第5回	身近な材料による造形体験と指導計画の検討1										
第6回	身近な材料による造形体験と指導計画の検討2										
第7回	身近な材料による造形体験と指導計画の検討3										
第8回	身近な材料による造形体験と指導計画の検討4										
第9回	身近な材料による造形体験と指導計画の検討5										
第10回	保育現場での体験を振り返る—ものとのかわりから見えてくる子どもの姿										
第11回	遊具制作 1										
第12回	遊具制作 2										
第13回	遊具制作 3										
第14回	遊具制作 4										
第15回	作品発表 子どもの姿と造形										
教科書・参考書						受講生へのメッセージ					
教科書：『幼児造形の研究 保育内容 「造形表現」』辻泰秀編著、萌文書林 参考書：『保育をひらく造形表現』槇英子、萌文書						制作の際には、汚れてもよい服装等、各自心がけること。 材料用具は個人負担であり、準備物は不可欠である。					